

「深井保健科学研究所セミナー」(2014年1月～2014年12月)

◆深井保健科学研究所第13回コロキウム

口腔保健におけるライフコースアプローチ

The life-course approach in the field of oral health

■開催趣旨：

生活習慣病(NCDs)の予防に寄与する歯科口腔保健は、わが国の政策課題の一つである。ライフコースアプローチは、「成人における疾病の原因を胎児期、乳幼児期、およびその後の人生をどのような環境で過ごし、どのような軌跡をたどってきたのかという要因で説明しようとする学問」である(藤原, 2007)。すなわち、成人期の疾病の発症を胎児期からのリスクの蓄積で説明し、リスク低減の方策を追究する手法のひとつとして注目されている。

一方、歯科疾患は蓄積性の疾患とこれまで捉えられていて、小児期からのう蝕予防をはじめとする対策が、歯の喪失防止および口腔機能の保持にかかわる生涯保健に有効である。しかしながら、歯科領域で小児期からの口腔保健が、成人および高齢期にどのような影響を与えるかについては、これまで検証が十分ではない。

また、う蝕、歯周病、歯の喪失という口腔疾患は、発病時期が異なり、例えば、歯周病が、他のNCDsと同様に中高年以降に重症化する理由、あるいは歯の喪失が、なぜ加齢と共に増加するのかというシンプルな疑問に対して明確な回答が得られているわけではない。このように疾病を胎児期小児期からのリスクの蓄積と捉えそのエビデンスを集積するには、世代効果、時代効果、生物学的要因等を考慮した疫学的解析が必要である。

そこで、本コロキウムでは、ライフコースアプローチの観点から、歯科疾患および生活習慣病(NCDs)の疫学像を捉えなおし、両者に対する一体的なリスク低減の方策と健康政策上の位置づけについて議論し、現時点の整理を試みたい。

■主 催：深井保健科学研究所

■日 程：2013年8月10日(土)10時受付

■会 場：東京国際フォーラム ガラスホール棟6階 G602

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1 JR有楽町駅下車

■参加費：コロキウム参加費：一般5,000円、懇親会参加費4,000円

■事前申し込み(メールで送信)：fukaik@fihs.org

■問合せ先：

〒341-0003 埼玉県三郷市彦成3-86

深井保健科学研究所 所長 深井穂博 048-957-3315

資 料

■プログラム：

11：00－11：05 開会，主旨説明

11：05－13：15 ヘルスサイエンス・ヘルスケアの最新トピックス（口演発表各15分）

瀧口 徹（新潟医療福祉大学）、遠藤真美（九州歯科大学）、
百合草健圭志（静岡県立静岡がんセンター）、恒石美登里（日本歯科総合研究機構）、
白田千代子（東京医科歯科大学）、川崎弘二（大阪歯科大学）、
高柳篤史（高柳歯科医院）、大山 篤（神戸製鋼）他

13：15－14：00 ランチタイム，深井保健科学研究所報告

14：00－16：45 シンポジウム－口腔保健におけるライフコースアプローチ

●主旨説明・課題提起 深井穫博（深井保健科学研究所）

●話題提供

1. ライフコース疫学の展開（30分） 相田 潤（東北大学）
2. 歯科疾患の疫学（各20分）
 - ・う蝕の疫学 神原正樹（大阪歯科大学）
 - ・歯周疾患の疫学指標－課題と展望 伊藤博夫（徳島大学）
 - ・歯の喪失の疫学 安藤雄一（国立保健医療科学院）
3. NCDsと口腔保健（各20分）
 - ・生活習慣病の疫学－メタボ対策の成果 岡本悦司（国立保健医療科学院）
 - ・NCDsと口腔保健との関連性 花田信弘（鶴見大学）

●指定発言およびディスカッション（30分）

口腔保健におけるライフコースアプローチとNCDs

●まとめ（5分）

FIHS Policy Statement 2014

17：00 閉会

17：30 懇親会（別会場：だん家国際フォーラム前店、03-5219-8655）

コロキウム2014 提言

口腔保健におけるライフコースアプローチ

深井保健科学研究所

第13回コロキウム「口腔保健におけるライフコースアプローチ」

2014年8月10日(日), 東京, 日本

口腔疾患と生活習慣病（NCDs：Non-communicable diseases）はいずれも、個人の生活習慣・行動、環境、および社会経済的要因に影響される疾患である。

これらの予防可能な疾患に対する成人期の健康政策は、長寿社会における持続可能な社会保障制度を維持するための主要な健康課題の一つとなっている。

ライフコースアプローチは、成人期以降の生活習慣病を、胎児期・小児期からの長期間にわたるリスクの蓄積や連鎖によってその発症を説明し、その対処を図るアプローチであり、科学的根拠も示されるようになってきた。

口腔疾患は、これまでライフステージ別に、目標と評価を行うことで成果を上げてきたが、NCDsとの共通リスクファクターへの対応をより効果的に行うという観点から下記の提言を行う。

1. 口腔保健におけるライフステージ別対応に加えて、ライフコースアプローチに基づく具体的取り組みを促進する。
2. 胎児・乳幼児期および小児期からのリスク因子と口腔疾患が、成人期以降の口腔の健康に対する影響を明らかにし、ライフコースを通じた口腔疾患のリスクモデルを確立するための研究を促進する。
3. 口腔疾患およびNCDsの発症機序並びに関連因子を、aging等の生物学的要因と社会的決定要因を統合して解明するためのライフコース疫学研究を促進し、その科学的根拠の蓄積を図る。
4. 効果的で効率的な疾病予防の観点から、口腔疾患およびNCDsの共通リスクファクターに対して、ライフコースアプローチを通して、より早期から多職種が相互に取り組むための社会保健システムの構築を追究する。

Policy statement of Fukai Institute of Health Science

The life-course approach in the field of oral health

Adopted at the 13th Fukai Institute of Health Science (FIHS) Colloquium,

10 August 2014, Tokyo, Japan

The main determinants of both oral diseases and non-communicable diseases are behavioral, environmental, and socioeconomic factors. Formulating an effective and efficient health policy which helps adults cope with these preventable diseases is a major challenge for maintaining a sustainable social security system in an aging society.

The life-course approach is a new paradigm in which the prevalence of NCDs among adults is determined by the long-term accumulation or continuation of health risks throughout life, beginning from the fetal stage. There is already a growing body of empirical evidence supporting this approach.

In the past, oral health practice and policy goals were set separately for each life stage, but the life-course approach is likely to be a more effective approach to common risk factors of oral health and NCDs.

With this in mind, our 2014 statement sets the following goals for research and policy in the coming year:

1. To facilitate concrete practice and policy change in the dental field based on the life-course approach. It is hoped that this new approach can supplement and be integrated with the existing life stage approach.
2. To investigate the influence of childhood and fetal health risk factors and oral diseases on adult oral health, and to develop a risk model which shows how the accumulation of these factors over time affects oral health later in life.
3. To develop life-course epidemiology, which integrates biological factors such as aging and social health determinants, and use it to accumulate further evidence regarding the pathogenesis and risk factors of oral diseases and NCDs.
4. To establish a more effective and efficient health care system based on the life-course approach. This system would take into account the common risk factors of oral disease and NCDs from an earlier stage and involving more collaboration among health professionals and institutions in various health-related fields.

◆FIHS Seminar (124th ~ 133rd) : How to make an effective English
Presentation of health science

124th FIHS Seminar

Date: 8 March, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD., Atsushi Oyama, D.D.S., PhD.

125th FIHS Seminar

Date: 7 April, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

126th FIHS Seminar

Date: 17 May, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

127th FIHS Seminar

Date: 7 June, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

128th FIHS Seminar

Date: 19 July, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

129th FIHS Seminar

Date: 16 August, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

130th FIHS Seminar

Date: 20 September, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

131st FIHS Seminar

Date: 18 October, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

132nd FIHS Seminar

Date: 15 November, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiro Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

133rd FIHS Seminar

Date: 13 December, 2014, 19:00-21:00

Place: Fukai Institute of Health Science

Lecturer: Kakuhiko Fukai, D.D.S., PhD., Koichi Yoshino, D.D.S., PhD.

◆「歯科疫学研究会」定例セミナー（105回～115回）

第105回歯科疫学セミナー

日 時：2014年1月30日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、大山 篤、多田、萩原、田村光平、高柳篤史、石田智洋

- (1) 安藤雄一 ①H23歯科疾患実態調査VS国民健康栄養調査
（歯の保有状況について）バイアスの可能性
②行政の歯科保健担当者職員に対する Web アンケート調査
・実態調査と（Web・Q）+紙ベース
・「歯っとサイト」の作成
③H24年度歯科医院ベースで行われた生活支援プログラム
（新潟県燕市）の介入効果・受診状況に関する分析
・支援プログラム前後の変化

(2) 深井穫博 Association 08 Dental Cooperation in Nepal 27th, 26 Dec 2015-4 Jan 2014

第106回歯科疫学セミナー

日 時：2014年2月20日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：大山 篤、安藤雄一、深井穫博、田村光平、福井、高柳篤史

- (1) 大山 篤 DMと歯周病に関するマクロミル調査（ターゲットモニター）DM
①質問紙 日歯、特定健診、特定保健指導、国民健康栄養調査
- (2) 安藤雄一 行政の歯科職

第107回歯科疫学セミナー

日 時：2014年3月27日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、石田智洋、田村光平、福井

- (1) 石田智洋 定期歯科受診調査（中断と再開について）
- (2) 田村光平 ブロック・中核拠点病院における HIV・AIDS 歯科医療提供体制の取組状況について
- (3) 深井穫博 韓国高齢者歯科シンポジウム写真紹介+講演ダイジェスト
Current status and perspectives of home dental care provision in Japan
- (4) 安藤雄一 国民生活基礎調査
・「歯科通院中」の割合 ・歯科診療所の通院者率（年齢階級別）

第108回歯科疫学セミナー

日 時：2014年4月24日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、大山 篤、高柳篤史、柳澤、石田智洋、田村光平、多田、伊藤 奏

- (1) 伊藤 奏 仮想評価法を用いた航空の健康に対する価値観の調査
- (2) 石田智洋 定期受診の中断と再開（2回目）
- (3) 深井穫博 韓国高齢者歯科シンポジウム写真紹介+講演ダイジェスト

Current status and perspectives of home dental care provision in Japan

- (4) 大山 篤 II型糖尿病と口腔保健：食生活・運動機能に関連する投句性にどのような違いがみられるか

第109回歯科疫学セミナー

日 時：2014年5月15日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、高柳篤史、萩原、多田、石田智洋、伊藤 奏、田村光平

- (1) 安藤雄一 住民基本台帳情報とリンゲージした各種データを用いた歯周疾患検診受診者の特性に関する分析
- (2) 高柳篤史 H25年度武蔵野歯科健康診査結果

第110回歯科疫学セミナー

日 時：2014年6月12日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、高柳篤史、田村光平、多田、大山 篤、石田智洋

- (1) 石田智洋 定期受診の中断と再開（3回目）性、年齢階級別基礎集計
- (2) 深井穫博 歯科医療の効果実証に関する調査・研究

第111回歯科疫学セミナー

日 時：2014年7月12日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、高柳篤史

第112回歯科疫学セミナー

日 時：2014年9月18日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、田村光平、多田、萩原、石田智洋、高柳篤史、大山 篤

- (1) 安藤雄一 杉並区健康長寿モニター事業 初年度調査結果報告
- (2) 大山 篤 医療現場の倫理的ジレンマに関する国民の意識調査
- (3) 深井穫博 World Oral Health Forum Challenges of oral health care in an aging society

第113回歯科疫学セミナー

日 時：2014年10月16日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、大山 篤、田村光平、萩原、佐藤、石田智洋、木村康之

- (1) 木村康之 実験的に歯周欠損と骨髄由来細胞
- (2) 佐藤 TLR4 遺伝子の一塩基多型rs11536889はTLR4発現量に關与する
- (3) 石田智洋 定期受診の中断の実態（ポスター）
- (4) 深井穫博 長寿社会における歯・口腔の健康と全身の關係（イントロ）

第114回歯科疫学セミナー

日 時：2014年11月27日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、大山 篤、田村光平、佐藤、石田智洋、多田、萩原、高柳篤史、高柳那緒、草野 綾

- (1) 大山 篤 智歯抜歯に関する臨床決断シナリオに対する国民の意識調査

資 料

- (2) 深井穫博 口腔保健におけるライフコースアプローチの展開
軽度な慢性疾患から重症化を防ぐ

第115回歯科疫学セミナー

日 時：2014年12月25日（木）午後7時から

会 場：深井保健科学研究所（埼玉県三郷市彦成3-86）

発表者：深井穫博、安藤雄一、佐藤、高柳篤史、田村光平、草野 綾

- (1) 安藤雄一 H23 歯科疾患実態調査リンゲージデータ
国民健康栄養調査+国民基礎調査による分析 予備解析結果
- (2) 深井穫博 歯科医院で歯の治療を受けた、歯科医院に行った間隔5年以上受けていない人の
割合平成26年度実施の「歯科医療による健康増進効果に関する研究」に関する報告書